

志賀小学校
不登校対策マニュアル

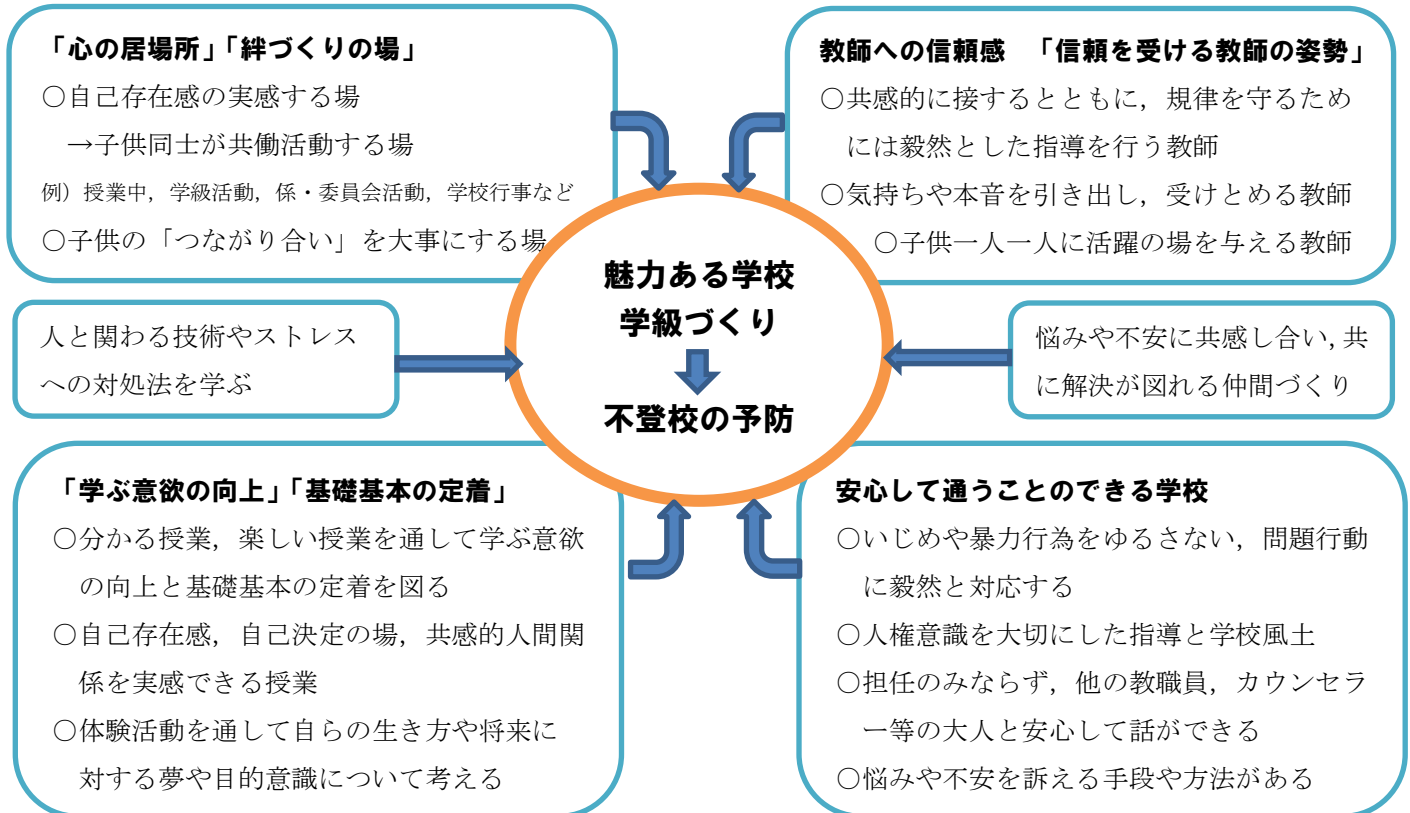


令和8年4月
志賀町立志賀小学校

未然防止

(1) 不登校にならない魅力ある学校・学級づくり

不登校にならないようにするために魅力ある学校・学級づくりを進めることが必要である。児童一人一人が自分の役割をもち、やりがいを感じながら学校生活を送る中で自己有用感を感じることができる。そうした魅力ある学校・学級の中で「自分の居場所」を見つけ一人一人の子供達の自己肯定感を高めることが未然防止につながる。



基盤としての学級経営の充実 ～あたたかい人間関係, 規律と活気ある集団～

○年度初めの学級開きがポイント 緊張をほぐしながら, 信頼関係を築く

○年度途中で, 担任は学級の様子に気を配り, 状況を客観的に知ることも大切

○子供達の「つながりあい」を支援する

例) ・人間関係づくりエクササイズ

(構成的グループエンカウンター, アサーショントレーニング, 体ほぐし運動等)

・人との関わり合いを意識した係活動, 委員会活動

(委員会による活動, お楽しみ係, 協力が必要な係活動のしかけ等)

・友達と協力することの大切さに気づかせる学校行事

(運動会, 宿泊体験学習, 遠足活動, 学年行事等)

・教え合い, 学び合いで子供を伸ばす「ミニ先生」

(授業や休み時間, 放課後など子供同士が教え合い, 学び合うようなしかけ)

早期発見・初期対応

(2) 不登校の兆候・心のサインを見逃さない

欠席は月3日がターニング・ポイントである。「子供はめったに休まない」ことを前提に、欠席に対して迅速かつあたたかい対応が行うことが大切である。また、「病気欠席」や「遅刻・早退が増える」中にも不登校の兆候が隠れていることを認識して早期発見に努める。

欠席 1日…

病気欠席の場合 → 病状を把握し、「体を休め、元気になって学校で会おうね」等、回復を願う旨を保護者や本人に伝える。

気になる欠席事由の場合

保護者との連絡を密にして、原因を探る。「今日はゆっくり休んで、元気になって学校で会おうね」等、回復を願う旨をできれば本人に伝える。

欠席 連続 3日…

病気欠席の場合 → **家庭訪問**をして病状を把握し、「元気になった〇〇さんに会いたい」等の「待っている」という担任や級友の気持ちをできれば本人に伝える。

気になる欠席事由の場合

保護者との連絡をもとに、**家庭訪問を必ず行う**。「君のことを心配しているよ」「待っているよ」等の気持ちを伝え、安心して再登校できるよう支援する。

欠席 月合計 3日以上

話を聞く場を設定する

心身のバランスが崩れている可能性がある。「最近どうしたの?」「大丈夫?」等の声をかけ、不安や悩みに寄り添いながら話を聞く場を設定する。

不登校の疑いがないか点検をする

不登校の兆候がないか学校内での友人関係、学業、生活の様子等を点検する。また、保護者にも家庭での様子等を聞き、子供の様子が心配であることを伝える。生徒指導主事を通じて管理職に**欠席理由、対応状況などを報告**する。

欠席 月合計 6日以上

支援チームを編成する

担任、管理職、養護教諭、スクールカウンセラー、教育相談、生徒指導主事など子供と信頼関係が築きやすい関係職員から成るチームを編成する。

ケース会議で支援策を検討し、支援を開始する

ケース会議で支援策を検討し、支援を開始する。**指導記録（個人記録）**に基づく**継続的な支援を保護者と連携**しながら行う。定期的な電話連絡や家庭訪問を行い、「君のことを心配しているよ」「待っているよ」等の気持ちを伝え、安心して再登校できるよう状況に合わせて適切な支援する。

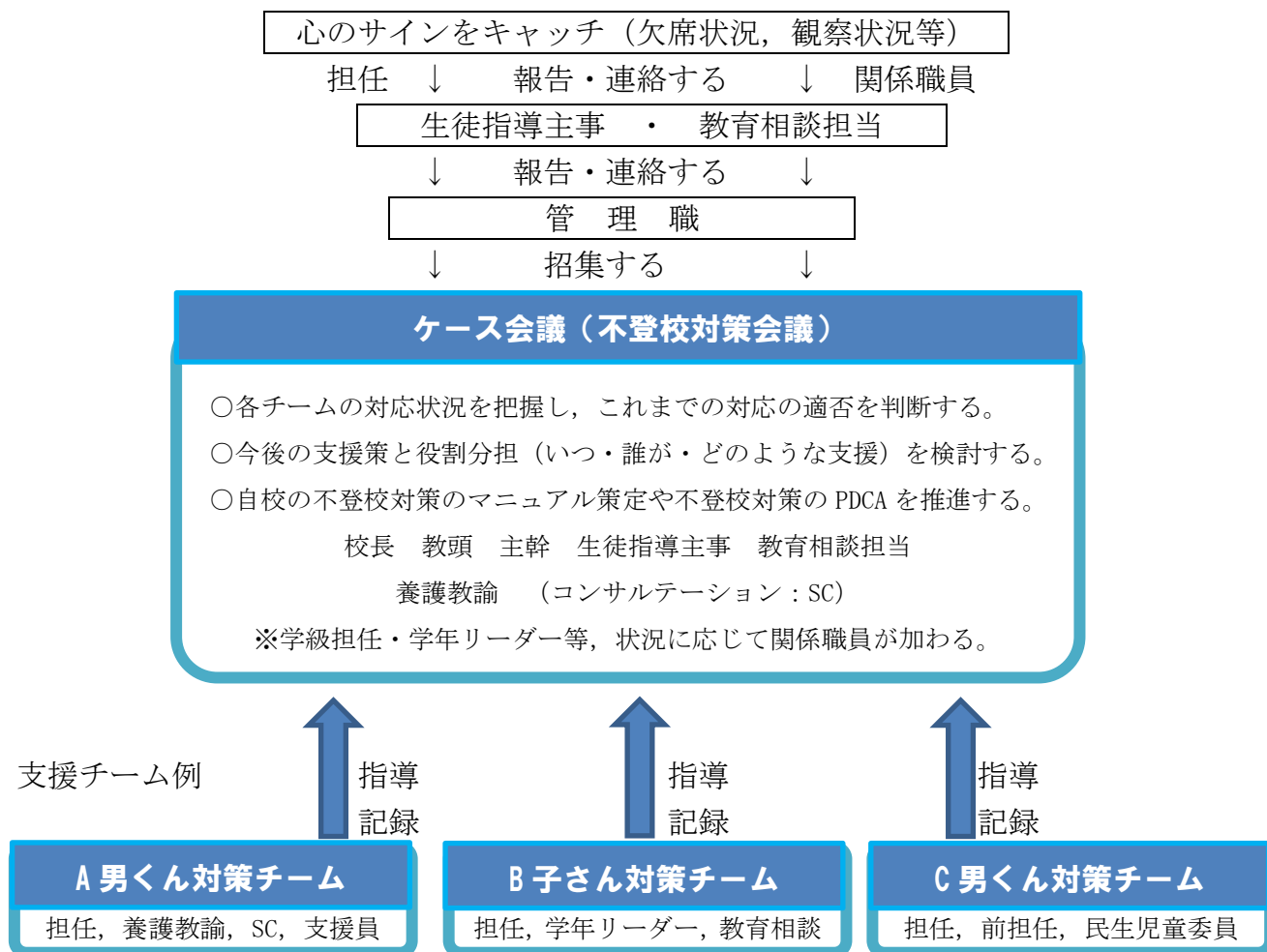
心のサインをキャッチしよう → 教師と子供の日常の交流
(あいさつ・健康観察・ノート等)

キャッチしたら… → まずは、一声かけましょう。
(「先生は心配しているよ」というメッセージを送ろう)

継続的対応

(3) 継続して支援するための組織体制づくり

不登校対策は組織で取り組むとともに、個々の事案についてはチームで対応する。例えば「欠席に関する対応方法等」はルール化して共通した対応ができるようにする。また、指導記録（個人記録）の共有化を図ったり、欠席状況の報告要件や報告経路などを定めたりして組織的対応につなげる。不登校事案ごとの対応には、ケース会議を中心に、子供との信頼関係を築きやすい職員で構成する支援チームが対応に当たる。



ケース会議のポイント

- ①適切な人員構成…多面的な検討が行えるような人員構成にする。
- ②情報の視覚化 …単なる情報交換に終始しないためにも、指導記録をもと情報を効率的に共有できるよう視覚化するなどの工夫を行う。
- ③分析と方針決定…対象児童の「見立て」を多面的に行い、これまでの対応の適否や今後の支援策や役割分担，次回の日程等を検討する。

コンサルテーション（専門的知見による援助・助言）

スクールカウンセラー等によるコンサルテーションを行う。出席できない場合は、指導記録（個人記録）を使った紙上コンサルテーションを行う。